

# 学生向け現場見学 初開催

県道路メンテナンス会議

## 橋梁の老朽化対策

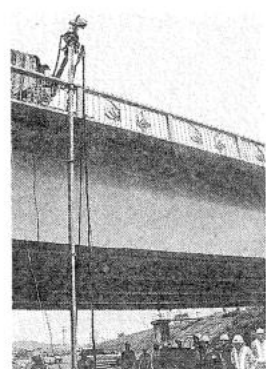
座学も行う



福井県道路メンテナンス会議は14日、技術系の学生を招いた現場見学会

を初開催し、橋梁の老朽化対策の重要性を分かりやすく紹介した。福井大学と福井工業大学、福井高専で建築土木を学ぶ学生約35人が参加した。

学生たちはまず国土交通省福井河川国道事務所内で座学に臨み、全国70万橋のうち10年後には4割以上が寿命の築50年超となる厳しい現実から、



コンクリート劣化の進行メカニズムや福井発の橋梁点検次世代インフラ「見る・診る」の優れた

機能性の説明も受けた。

この後一行は、福井市内の足羽川にかかる板垣橋を見学。橋梁下から床版を見上げ、ひび割れなど劣化の進行状況を自分の目で確かめた。高所作業車上では自らハンマーを用いて、損傷具合を直接点検し体験的に理解し写真上。またジビル調査設計（福井市大願寺2丁目）開発の橋梁点検カメラシステム「見る・診る」の実演では小型の橋上車から伸びるアームが橋下で自在に動き、桁端部の狭い空間をも動画で写し出す先端技術に触れた。写真下。さらに非破壊検査の電磁波レータ法やASRゲルステイン法における判定の仕方も実際の探查装置が使用され、県コンクリート診断士会員の説明に耳を傾けた。

学生の率直な感想では「土木も作っては直すサイクルが大切」（建築を主に学ぶ学生）と視野を広げ、土木専攻生は点検作業が「安全に十分配慮する点」に感心するなど向学心を一層強くしたよう。最後に県担当者が「土木は現場の学びが大きい。ぜひ今後の勉学や仕事に生かしてほしい」と将来を担う有望な人材にエールを送った。